

第3回大山入山料徴収社会実験実行委員会
議事要旨

1. 日時：令和2年1月30日（木）13：30～15：30

2. 場所：米子市公会堂

3. 出席者：

（委員・敬称略）

【関係機関・団体】

相見 正邦（大神山神社 禰宜）

山根 均（大山旅館組合 組合長）

白石 夏季（一般社団法人 大山観光局 事務局長）

矢田貝 繁明（一般社団法人 大山観光局 大山自然歴史館館長）

堀田 利明（一般財団法人 自然公園財団鳥取支部 所長）

三原 勝弘（一般財団法人 自然公園財団鳥取支部 副所長）

上野 紀代子（一般社団法人 大山ガイドクラブ 理事）

北浦 宏志（中国山岳ガイド協会 会長）

亀尾 崇（鳥取県山岳・スポーツクライミング協会 副会長）

【外部有識者等】

柘植 隆宏（甲南大学経済学部 教授）

大土 洋史（株式会社ヤマップ 営業企画マネージャー）

（事務局）

辻田 香織（環境省大山隠岐国立公園管理事務所 所長）

中山 良太（環境省大山隠岐国立公園管理事務所 国立公園保護管理企画官）

浦田 悦雄（鳥取県緑豊かな自然課 課長補佐）

奥村 哲明（鳥取県緑豊かな自然課 係長）

後藤田 拓也（鳥取県西部総合事務所生活安全課 課長）

小谷 博（鳥取県西部総合事務所生活安全課 参事）

田村 晴久（鳥取県西部総合事務所生活安全課 係長）

池原 真（鳥取県西部総合事務所西部観光商工課 課長補佐）

天島 かおり（大山町観光課 課長補佐）

西村 済（大山町観光課 主任）

寺崎 竜雄（公益財団法人日本交通公社 理事／観光地域部長）

伊豆 菜津美（公益財団法人日本交通公社 副主任研究員）

4. 議事概要

- ・ 駐車場アンケート調査において、98%の回答者が1円以上支払うという結果になっているが、アンケート上での回答であり、実際に募金を求められた時に募金するとは限らないのではないか。写真を撮るためだけに一時的に駐車したような人は通常協力しようと思わないのではないか。
- ・ 駐車場アンケート調査の結果について、駐車場の有料化を検討していると誤解され得る表現が一部あるため、表現を改めたほうが良い。
- ・ 協力金の収支の試算結果について、数字が独り歩きすることのないよう、単年度での社会実験の結果から推計されたものであり、精度がそれほど高いといえない旨の説明を追記すべき。
- ・ 登山者の協力する割合は、制度を継続する中で変化してくだらう。制度に慣れて支払う人が増えたり、逆に、一度支払ったからもう支払いたくないという人が増えることも考えられる。今後はこのような変化を考慮したような試算も必要ではないか。
- ・ 協力金の収支の試算において、黒字部分が保全や整備等の経費として活用できる資金となるということがわかりやすく伝わるよう表現を工夫したほうが良い。
- ・ 勧告案中の社会実験の趣旨について、大山での植生保護などの取組についてはボランティア活動をはじめ官民一体となって行ってきたので、この点も記載に含めてほしい。
- ・ 勧告案中の受益者負担の仕組みを導入する場合に考慮すべき事項について、学校登山への配慮に加え、家族での登山への配慮も必要ではないか。また、調査や祭事などで入山する人への配慮も必要である。
- ・ 協力率を上げる方法の一つとして、一定の金額以上を寄付した登山者については、税額控除の証明書を発行するようなシステムがあってもよいのではないか。
- ・ 大山に思い入れがあって登っている登山者にとっては、記念品の有無は協力するか否かを左右するものではなく、全体の協力率に影響しないという可能性も考えられる。
- ・ 財布を持ち合わせていないことを理由に協力金に協力しない登山者もいるだろうから、近年利用率が高まってきている交通系ICや決済アプリなどの現金以外の支払い方法についても、将来的に検討していくことが重要である。人件費などのコスト削減にもつながる。
- ・ 一つの事例として参考まで、九州の英彦山の登山者は年間1万人にも満たないが、登山道整備のためクラウドファンディングを実施したところ270万円集まった。今年は英彦山に行かないが何かお礼をしたいと寄付する人も多かった。また、寄付の返礼品として登山道整備作業に参加できるという権利を作ったところ、多くの応募があった。